

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	構造力学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0020			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (都市・環境系共通科目)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	教科書: 能町純雄編著「構造力学Ⅰ」朝倉書店／参考図書: 米田昌弘著「構造力学を学ぶ」森北出版、赤木知之・色部誠共著「構造力学問題集－第2版－」森北出版、平野喜三郎・岩瀬敏昭 共著「構造力学演習－上巻－」現代工学社、平井一男・水田洋司・内谷 保共著「構造力学入門」、森北出版						
担当教員	浦島 三朗						
到達目標							
1.断面の図心と断面1次・2次モーメントの関係が説明でき、計算ができる。 2.応力とひずみの関係を理解し、それらに関する問題を解くことができる。 3.モールの応力円を用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。 4.はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を理解し、計算ができる。 5.静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。 6.静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1.断面の図心と断面1次・2次モーメントの関係が説明でき、計算ができる。	断面の図心と断面1次・2次モーメントの関係が説明でき、計算ができる。			断面の図心と断面1次・2次モーメントの関係が説明でき、基本的な計算ができる。		断面の図心と断面1次・2次モーメントの関係が説明できない。計算ができない。	
2.応力とひずみの関係を理解し、それらに関する問題を解くことができる。	応力とひずみの関係を理解し、それらに関する問題を解くことができる。			応力とひずみの関係を理解し、それらに関する基本的な問題を解くことができる。		応力とひずみの関係を理解していない。それらに関する問題を解くことができない。	
3.モールの応力円を用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。	モールの応力円を用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。			モールの応力円を用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の基礎的な計算ができる。		モールの応力円を用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができない。	
4.はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を理解し、計算ができる。	はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を理解し、計算ができる。			はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を理解し、基礎的な計算ができる。		はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を理解できない。計算ができない。	
5.静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。	静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。			静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で基本的な問題を解くことができる。		静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で基本的な問題が解けない。	
6.静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。	静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。			静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で基本的な問題を解くことができる。		静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で基本的な問題が解けない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	3年次の構造力学では、2年次までに習得した構造力学の知識に立脚してはりにおける断面力、応力とひずみ、たわみ及びたわみ角（静定ばり）との関係について習得します。						
授業の進め方・方法	授業は、主に教員による説明、演習で構成されます。 成績は中間・定期試験（4回の試験）の平均、または、レポートおよび授業への参加等を含めた総合的評価（4回の試験の平均60%、レポート30%、授業への参加等10%）で評価します。合格点は60点です。但し、合格点に達しなかった評価は、中間・定期試験の平均とします。原則、再試験は行いません。						
注意点	授業には、ノート（B5版大学ノート）、電卓、定規を用意すること。また、応力とひずみ（モールの応力円）では定規、コンパス、分度器を使用します。 授業項目ごとに出される課題レポートは自学自習により取り組むこと。提出された課題レポートは目標が達成されていることを確認し、未達成の場合は、再提出を求めます。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	断面の性質（1）：断面1次モーメント		断面の図心と断面1次モーメントの関係を説明でき、計算ができる。		
		2週	断面の性質（2）：断面1次モーメント		断面の図心と断面1次モーメントの関係を説明でき、計算ができる。		
		3週	断面の性質（3）：断面1次モーメント		断面の図心と断面1次モーメントの関係を説明でき、計算ができる。		
		4週	断面の性質（4）：断面2次モーメント		基本的な断面の断面1次モーメント、断面2次モーメントの計算ができる。		
		5週	断面の性質（5）：断面2次モーメント		基本的な断面の断面1次モーメント、断面2次モーメントの計算ができる。		
		6週	断面の性質（6）：断面2次モーメント		基本的な断面の断面1次モーメント、断面2次モーメントの計算ができる。		
		7週	断面の性質（7）：断面2次モーメント		基本的な断面の断面1次モーメント、断面2次モーメントの計算ができる。		
		8週	応力とひずみ（1）：応力とひずみの関係		応力とひずみ、温度応力、結合部材について説明でき、計算ができる。		
	2ndQ	9週	応力とひずみ（2）：応力とひずみの関係		応力とひずみ、温度応力、結合部材について説明でき、計算ができる。		
		10週	応力とひずみ（3）：断面に生じる応力（圧縮、引張）		応力とひずみ、温度応力、結合部材について説明でき、計算ができる。		
		11週	応力とひずみ（4）：断面に生じる応力（圧縮、引張）		応力とひずみ、温度応力、結合部材について説明でき、計算ができる。		
		12週	応力とひずみ（5）：断面に生じる応力（圧縮、引張）		応力とひずみ、温度応力、結合部材について説明でき、計算ができる。		

後期		13週	応力とひずみ（６）：モールの応力円	モールの応力円について説明でき、これを用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。
		14週	応力とひずみ（７）：モールの応力円	モールの応力円について説明でき、これを用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。
		15週	応力とひずみ（８）：モールの応力円	モールの応力円について説明でき、これを用いて、主応力、任意の面の応力、最大せん断応力の計算ができる。
		16週	定期試験	
	3rdQ	1週	はりの応力（１）：はりの応力	はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を説明でき、計算ができる。
		2週	はりの応力（２）：はりの応力	はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を説明でき、計算ができる。
		3週	はりの応力（３）：はりの応力	はりにせん断力、曲げモーメントが作用したときの応力の関係を説明でき、計算ができる。
		4週	はりの応力（４）：荷重、せん断力、曲げモーメント	はりの荷重、せん断力、曲げモーメントの関係を説明でき、計算ができる。
		5週	はりの応力（５）：荷重、せん断力、曲げモーメント	はりの荷重、せん断力、曲げモーメントの関係を説明でき、計算ができる。
		6週	はりの応力（６）：荷重、せん断力、曲げモーメント	はりの荷重、せん断力、曲げモーメントの関係を説明でき、計算ができる。
		7週	はりの応力（７）：荷重、せん断力、曲げモーメント	はりの荷重、せん断力、曲げモーメントの関係を説明でき、計算ができる。
		8週	はりのたわみ（１）：曲げモーメントによるはりのたわみ	はりの曲げモーメントによるはりのたわみを説明できる。
	4thQ	9週	はりのたわみ（２）：微分方程式による解法	静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。
		10週	はりのたわみ（３）：微分方程式による解法	静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。
		11週	はりのたわみ（４）：微分方程式による解法	静定ばりのせん断力、曲げモーメント、たわみ角、たわみを微分方程式による解法で解くことができる。
		12週	はりのたわみ（５）：弾性荷重法による解法	静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。
		13週	はりのたわみ（６）：弾性荷重法による解法	静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。
		14週	はりのたわみ（７）：弾性荷重法による解法	静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。
		15週	はりのたわみ（８）：弾性荷重法による解法	静定ばりのたわみやたわみ角を弾性荷重法による解法で解くことができる。
		16週	定期試験	

評価割合							
	試験	課題	その他	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	10	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	30	10	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0